

# 第6回定例理事会

3月18日  
本部会議室  
出席理事22人・監事2人・特別参与2人

## 「営業に支障ない決着」会長

### 団体合意必要な事柄多い現状

冒頭、庄司孝輝会長は、「衆議院では遊技関連の質問主意書が2回ほど出された。6団体が去年9月30日の高射幸性機撤去の合意書進

捗に関して、行政が入ったの話し合いが始まった。また、日工組から『検定機と性能が異なる可能性のある型式』の撤去回収リストが第2次まで出された。加えて、4月1日から新台設置と部品交換の新しいルールが施行される。このようにこのところ立て続けにいろいろな動きが出ている。団体間の合意が必要な事柄ばかりが出てきている。ホール側が営業に支障がないような形で、しかも社会問題化しないように決着させていくことが重要だ」と述べた。

代替機が検定を通り次第、4、5、6月の中で可及的速やかな入替促進を図るとしている。このうち5月については、サミットの関連で2日から27日まで約1か月間新台の入替は不可能となっている。また、第3次リストの調査対象範囲は2014年に型式の適合を受けた全機種で、5月末をメドに調査を完了させ、6月上旬をメドにリストを公表したいとしており、現在ホールで稼働している機械が多数含まれていると想定されている。

また、「3 環境問題への積極的対応」に「(3)ホールにおける受動喫煙防止対策」を入れた。オリンピック・パラリンピック等に向けて、ホール内での受動喫煙防止対策を検討していく。

#### 第3次撤去リスト

#### 「6月上旬」の報告

「検定機と性能が異なる可能性のある型式のパチンコ遊技機」の撤去リスト

#### 新・重点推進事項 健全化研究を柱に

平成28年度重点推進事項(案)別掲が提案され承認された。昨年度と異なる部分は、「1 パチンコ・パチスロ新時代にふさわしいビジネスモデルの創造等、安心安全な遊技環境の整備」に「(2)健全化に向けた業界の在り方の研究」という大きな柱を立て、「ア 不正に対する断

#### 活動差額5千万円増

#### 収支予算書

平成28年度収支予算書(案)が報告された。事業活動収入は約4億6800万円、約8000万円増。会費収入が会員増を見込んで375万円増加した。事業収入は7800万円の増加だが、とくに取扱主任者収入が新規への申請率が高



## 平成28年度重点推進事項

～ 行動する日遊協 日遊協憲章・行動指針の実践 ～

### 1 パチンコ・パチスロ新時代にふさわしい ビジネスモデルの創造等、安心安全な遊技環境の整備

- (1)遊技産業活性化プロジェクトの推進
  - ア 多様な遊技機と遊技方法の検討
  - イ ファンのすそ野を広げるPR活動の推進
- (2)健全化に向けた業界の在り方の研究
  - ア 不正に対する断固たる対応
    - ・一般社団法人遊技産業健全化推進機構の活動への積極的な協力
    - ・遊技産業不正対策情報機構(PSIO)の活用と、地域セキュリティネット等との連携強化
  - イ 社会情勢の変化に対応した法令等の研究・改善の取組の強化
  - ウ 依存(のめり込み)問題対策の推進
  - エ 業界の自主規制の在り方についての検討
- (3)一般社団法人貯玉補償基金の整備充実
- (4)店舗における防犯対策の強化
- (5)訪日外国人の受入れ対策の研究

### 2 人づくり活動の推進

- (1)店長等講習等体系的な人材育成システムの充実強化
- (2)遊技機取扱主任者の講習・試験制度の充実強化

### 3 環境問題への積極的対応

- (1)省エネに関する意識の改革とエコホール等の対策の推進
- (2)遊技機リサイクルの積極的推進
- (3)ホールにおける受動喫煙防止対策
- (4)「みどりのきずな」「共生の森」計画の推進

### 4 社会貢献活動の推進と社会的評価を得るための効果的な広報活動の推進

- (1)遊技産業に対する理解と社会的評価を高めるための広報・各種イベント活動の推進
- (2)地域における各種ボランティア活動の推進と日遊協ボランティア派遣隊の充実強化

### 5 組織体制の整備と活性化

- (1)会員増強方策の積極的推進
- (2)委員会・プロジェクトチーム活動の整備
- (3)本部・支部間、支部相互間の情報交流の推進

### 6 遊技産業の各団体間の連携強化

- (1)団体間の各レベルの会議の充実強化
- (2)団体会員等と連携した広報活動等の実施

いたため約8000万円増加している。事業活動支出は約4億2300万円で3100万円の増。このうち事業費支出は3億6400万円で約3500万円増えた。内訳で活動旅費が230万の増だが、これは健全化勉強会や取扱主任者講習増で旅費が増えたため。さらに取扱主任者講習増に伴い、取扱

者講習等を含めた当期の収益差額増となった。事業別に見ると、健全化適正化事業費は6650万円、社会貢献・環境対策事業費1960万円となった。その他の事業(取扱主任者講習等)を含めた当期の収益差額増となった。

新規入会を申請した正会員7社(ホール5、販社2)、賛助会員4社の入会を承認した。これで3月18日現在、正会員350社(ホール116、機械76、販売114、景品10、その他

主任者証作成費が370万円増、手引き書の増加で印刷製本費が400万円増となった。事業運営費の1850万円増は、取扱主任者の試験経費、フェスタ、人材育成フォ

ラム等の関係となっている。事業活動収支差額は約4500万円で、前年度に比べ5000万円の増となった。この件についてはすでに主管の遊技機委員会が中止の意向を固めていた。

は約2440万円となっている。恒例の「遊技機アワード2015」について、くぎ問題や高射幸性遊技機の自主撤去など現在の業界情勢を考慮して、本年に限り中止することが提案され承認された。

## 正副会長・支部長会議

### 団体加盟の効果評価

正副会長・支部長会議が3月18日、第6回定例理事会に先立って開かれた。販社2団体(全商協、回

胴遊商)の日遊協への団体加入について協議した。日遊協への団体加入は現在3団体で、2007年11月に同友会、昨年6月に遊技機メーカー2団体(日工組、日電協)が加入している。とくに日工組、日電協の団体加入は、ファン増加のための新しい機械を出したり、協力してPRを行うなどの目的で行われ、その結果、現在「ちよいパチ」プロジェクトに反映されるなどいろいろな効果が出ている。

日工組による「遊技くぎの変更により性能が異なる可能性のある型式」の回収について、1、2次リストに載った遊技機の撤去期限、これから公表される3次リストの見通し等が説明された。さらに「ちよいパチ」開発の現状報告とホールへの導入推進についての説明が行われた。